

# イチゴ新品種 ‘とっておき’ の受苗時期別の定植適期

## 1 情報・成果の内容

### (1) 背景・目的

鳥取県の冬場の気象条件においても多収・高品質な品種の開発を目指して、‘とっておき’を育成した。促成イチゴ栽培において年内収量を確保するためには、品種ごとの花芽分化特性を把握し、定植を行うことが重要となる。そこで、‘とっておき’の受苗時期と定植日が第1花房の出蕾および収量に及ぼす影響について検討を行った。

### (2) 情報成果の要約

- 1) ‘とっておき’の花芽分化は、受苗時期によって異なっており、受苗時期が早いほど花芽分化が進む傾向がある。
- 2) 7月中～下旬の受苗では、9月7日時点で未分化苗の割合が高く、未分化苗の定植（9月7日区）では出蕾が遅れる傾向が認められた。
- 3) ‘とっておき’における受苗時期別の定植時期の目安を表1に示す。‘とっておき’の年内収量を確保するためには、6月下旬～7月上旬に受苗、9月上～中旬の定植が良いと考えられる。

表1 ‘とっておき’における受苗時期別の定植時期の目安

受苗時期	花芽分化期	定植時期
6月下旬	9月上旬	9月上～中旬
7月上旬	9月上旬	9月上～中旬
7月中旬	9月中旬	9月中旬～
7月下旬～	9月下旬～	9月下旬～

## 2 試験成果の概要

- (1) 試験区は表2のとおり設定し、2015年9月定植で実施した。栽培はピートベンチ（奈良方式）、株間23cm、千鳥植えで行った。
- (2) 定植時の苗の大きさは、受苗時期が早いほど大きい傾向があった。花芽分化状況は、受苗時期6月下区と7月上区で同等、7月中区と7月下～区で遅れた（表3）。
- (3) 第1花房の出蕾の推移は、受苗時期6月下区と7月上区では、9月7日と9月17日の両定植日で大差は認められなかったが、受苗時期7月中区と7月下～区では、9月17日に比べて9月7日定植で遅れる傾向であった（表4）。
- (4) 年内収量は、両定植日とも受苗時期6月下区と7月上区で高かった。
- (5) ‘とっておき’は、受苗時期によって花芽分化の状況が異なっており、受苗が早いほど花芽分化が進む傾向が認められた。また未分化苗の定植によって、第1花房の出蕾が遅れる可能性が高いと考えられた。受苗時期7月下～区では、9月17日定植時に未分化株が60%と高く、9月17日より定植日を遅らせた方が良いと考えられた。
- (6) 以上の結果、‘とっておき’は受苗時期によって定植日をかえる必要があり、受苗時期が早い苗から順次定植する方法が良いと考えられた（表1）。また‘とっておき’の年内収量を確保するためには、6月中旬～7月上旬に受苗、9月15～20日頃の定植が良いと考えられた。

表2 試験区の概要

定植日	受苗時期
9月7日	6月下 (6/22~6/30) 7月上 (7/1~7/10)
9月17日	7月中 (7/13~7/24) 7月下~ (7/27~8/5)

表3 苗の生育および花芽分化状況

受苗時期	9月7日調査					9月17日調査				
	草丈 (cm)	クラウン径 (mm)	花芽分化状況 (%)			草丈 (cm)	クラウン径 (mm)	花芽分化状況 (%)		
			未分化	分化初期	分化中後期			未分化	分化初期	分化中後期
6月下	27.5	8.1	20	60	20	28.1	8.7	10	20	70
7月上	26.3	7.8	30	50	20	26.5	8.3	0	40	60
7月中	23.2	6.9	70	30	0	23.5	7.6	20	50	30
7月下~	19.2	6.0	100	0	0	20.7	6.3	60	30	10

注) 花芽分化状況は、未分化、分化初期(成長点肥大~花房分化期)、分化中後期(萼片形成期以降)の3段階に分けて調査した。

表4 ‘とっておき’における定植日と受苗時期が第1花房の出蕾日に及ぼす影響

試験区		出蕾株率 (%)								
定植日	受苗時期	10/6	10/13	10/20	10/27	11/3	11/10	11/17	11/24	12/1
9月7日	6月下	0	6	25	88	94	100			
	7月上	0	31	56	94	94		100		
	7月中	0	6	6	31	44	50		63	63
	7月下~	0	0	0	6	6	13	19	25	31
9月17日	6月下	0	0	25	69	100				
	7月上	0	6	13	94	100				
	7月中	0	0	0	13	63	81	81	94	94
	7月下~	0	0	6	6	19	38	44	50	63

注) 出蕾株率が100%に達した時点で調査を終了した。

表5 収穫調査(株当たり)

試験区		収穫 開始日	総収量		上物収量			時期別の上物収量 (g)		
定植日	受苗時期		果数(個)	果重(g)	果数(個)	果重(g)	1果重(g)	前期	中期	後期
9月7日	6月下	11/16	52	619	40	545	13.7	91	260	195
	7月上	11/11	57	672	45	603	13.5	117	256	231
	7月中	11/16	48	586	38	518	13.7	30	296	192
	7月下~	12/21	46	558	37	494	13.4	13	313	168
9月17日	6月下	11/19	53	652	41	581	14.0	87	299	196
	7月上	11/16	58	716	46	649	14.2	132	288	229
	7月中	12/14	51	646	42	593	14.1	52	360	181
	7月下~	12/23	48	615	39	555	14.3	27	350	178

注) 前期: 収穫開始~12月、中期: 1月~3月、後期: 4月~5月

### 3 利用上の留意点

(1) ‘とっておき’は品種登録出願中である(品種登録出願日:平成28年2月4日、品種登録出願番号:第30820号)。

(2) ‘とっておき’は炭疽病に罹病性であるため、無病親株の確保、定期防除を徹底する。

### 4 試験担当者

野菜研究室 主任研究員 白岩裕隆  
室長 森本康史